

N1クラスは、地元近畿ではストーリーアマイスターとして知られる清水孝憲選手が見事な逆転勝ちを取めた。



近畿代表の清水孝憲ストーリー、気合一発の走りで西フェス初制覇

2019年のJMRC西日本ダートトライアルフェスティバルは、福岡県のスピードパーク恋の浦で西日本ジムカーナフェスと同日開催となった。中部、近畿、中国、四国、九州の5地区から、JMRCシリーズを戦う精鋭達が集まった。

会場が隣り合うということもあって、ダートフェスの方も、天候の影響を大きく受けることとなり、第1ヒートは雨もバラつく中でのトライに。しかし天候が回復したヒート2では路面も乾いて一気に好転し、タイムアップするドライバーが相次いだ。

18台がエントリーと盛況を見せたN1クラスは、ヒート1、優勝候補の一人である近畿の辰巳浩一郎選手が1分50秒台にタイムを乗せ、ともにインテグラを駆る川本圭祐、岸貴洋選手が辰巳選手に続くというオーダーで折り返す。

ヒート2では岸選手がまず1分48秒448で辰巳選手を逆転するが、続く近畿の清水孝憲選手が1分47秒台に叩き入れて、さらにベストを更新する。再逆転が注目された辰巳、川本選手は1分48秒台に乗せるもベスト更新はならず。清水選手が西フェス初制覇を達成した。

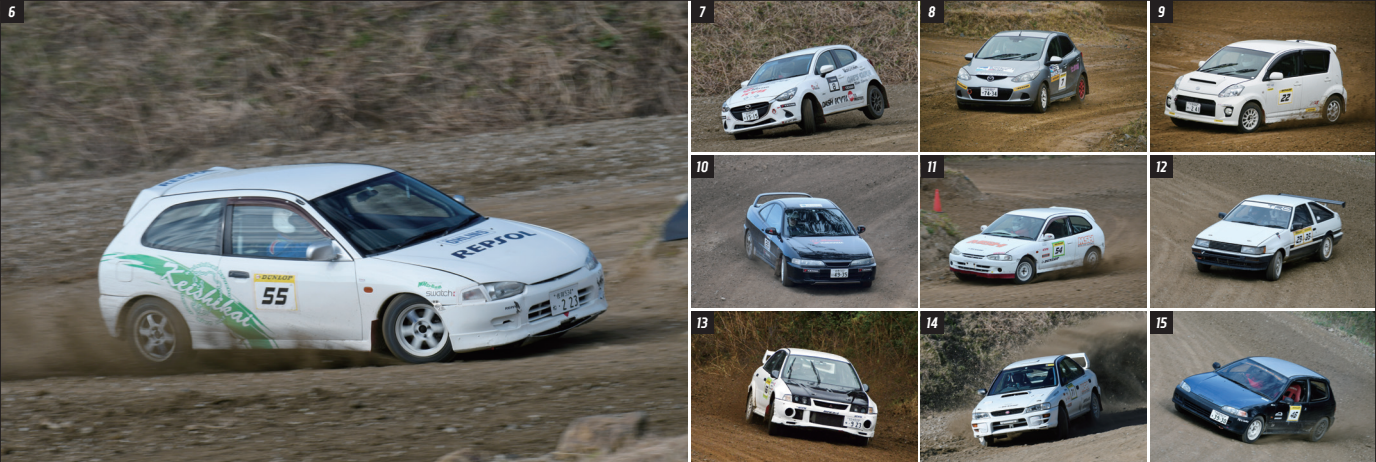
ダートラ歴18年、ストーリーを4台乗り続けてきた清水選手は、「ここは3回目ですけど、以前も上位に入れたりして、行ける感じがするコースではあるんです。でも、近畿のコースにはない下りがあって、今日も1本めは雨が降ってビビってしまって7位止まりだったので、2本めは力を振り絞って気合い入れて、下りを攻めたのが、やっぱり勝因だと思います」。

今までは後塵を拝していた、同じ近畿の先輩選手を抑えての勝利に快心の笑顔を見せていた。

19台がエントリーと、こちらも激戦区となったS1クラスは、ヒート1、地元九州勢が上位を独占する速さを見せるが、中国地区のFTO使いである山下貴史選手が1分49秒808を叩き出して、九州勢を抑えてトップに立つ。迎えたヒート2では九州の田口和久選手がまず1分47秒台までベストを更新するが、再び中国勢が速さを見せて今度は坂井秀

1. S2は中部の藤原崇史選手が快勝。「今日はギャップの入り方等のポイントを押さえて走れたのが勝因だと思います」。**2.** 「地元の池之平に土質が似ていたので感覚的にも合ったコースでした。アップダウンは元々好きなので練習から気分よく走れました」。PN1+クラスは中部の本道治成選手が優勝。**3.** PN1+で2位の島田正樹選手。**4.** N1で2位の岸貴洋選手。**5.** イデブロック選手はRWDで2位。





6. 19台がエントリーと今回最大の激戦区となったS1クラスは地元九州期待の若手、堤政人選手が優勝。7. PN1+で3位の堀田浩司選手。8. PN1+で4位の藤原秀利選手。9. N1で4位の辰巳浩一郎選手。10. N1で3位の川本圭祐選手。11. 中村凌選手はS1で3位。12. 酒井龍一選手はRWDで3位。13. S2で3位の片伯部亮由選手。14. S2で4位の嶋村健児選手。15. 笹栗魁人選手はS1で4位。16. N2は中国の清岡毅選手が2本ともベストで快勝。17. SCDクラスは地元の五味直樹選手が圧巻のタイムで優勝。18. 中部勢が表彰台独占のRWDクラスは寺田伸選手。19. 坂井秀年選手はS1で2位。20. S2で2位の山本厚選手。21. 織田一昭選手はSCDで2位。22. N2で2位の清水憲治選手。23. PN1+表彰の各選手。24. N1表彰の各選手。25. RWD表彰の各選手。26. S1表彰の各選手。27. N2表彰の各選手。28. S2表彰の各選手。29. SCD表彰の各選手。30. 田中精一選手はSCDで3位。

年選手が1分46秒854でベストを塗り替える。

この中国勢vs九州勢のバトルに終止符を打ったのは、JMRC九州ジュニアシリーズのチャンピオンである最終ゼッケンの堤政人選手。注目の山下選手が僅かのタイムアップにとどまったのに対して、ヒート1は5位だった堤選手

は、坂井選手の暫定ベストを0.4秒近く縮めて大逆転で優勝をさらった。

「路面が完全に乾いていたらドライタイヤの方が良かったと思いますが、セミウェットの部分が残っていたので、ドライを履いたことのない自分にはラッキーでした(笑)。2本めは九州の地区戦の速い方々がどんどんタイムアップして

7名のドライバーが表彰台に乗ったJMRC中部チームが地区対抗戦を制した。



いくので、『自分も行ける!』と気持ちを高めていけたのが勝因だと思います」前日の公開練習でクラッシュ。出走も危ぶまれたが、同じCJ4Aのミラージュに乗る地元や他地区の選手、関係者達の助けを受けてマシン修復が果たされただけに、「お世話になった方々に結果で恩返しできて良かったです」と

感謝しきりだった。

S2クラスでは中部の藤原崇史選手が、並みいる地元九州の強豪達を抑えて優勝を飾って周囲を驚かせたが、「実は今年は西フェスに賭けていたので、地元より恋の浦で走ることを優先させたんです」と藤原選手。

「ここは昔きれいに走れた記憶があったので、どうにか獲れるかなと今年は九州通ったんですけど、実際に地区戦走ってみたら、皆さん、滅茶苦茶速くて、タイムも離されたので勝てないと思ってたんですよ。九州の方々に揉まれたお陰で勝てたので、感謝したいです」。来たる2020シーズンについては、「中部地区戦でまず1勝を目指します」ときっぱりと答えてくれた。

なお地区対抗戦は藤原選手ははじめ3クラスで優勝を果たした中部地区が、地元の九州地区を抑えて優勝を飾った。